

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年3月31日現在）

農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 研修指導者が集まり情報交換会を開催

3月18日、飛騨地域農業再生協議会・担い手プロジェクトにて、研修生の受入農家や研修機関、県・市・J A等の関係者が集まって、「研修指導者情報交換会」を開催した。

情報交換会では、国や各市の支援制度等の説明の後、研修生を受け入れている指導農業士が事例発表をした。その後、本人に考えさせることの重要性や就農後の厳しさをどう伝えるかなど研修生への指導方針に加え、就農予定地の準備やハウス建設での「結」実施など指導者側の支援のあり方などについても意見交換がなされた。

農業普及課では、これからも受入農家や研修機関の意見を聞き、市やJ A等と連携して担い手育成に取り組む。



【情報交換会での意見交換】

■担い手 第45回県青年農業士連絡協議会飛騨支部が通常総会を開催

3月18日、県青年農業士連絡協議会飛騨支部（会長 池田俊也氏 会員数27名）が、第45回通常総会を開催した。

総会に合わせ、新年度に加入予定の青年農業士4名が紹介され、加入者からは「青年農業士として様々な研修会に参加し、飛騨の農業発展に貢献していきたい」と決意を語り、役員から「青年農業士の活動を理解し、自分の農業に活かしていただきたい」とエールを返した。

農業普及課では事務局として、令和4年度も青年農業士会活動の更なる活発化を支援する。



【青年農業士が総会開催】

農畜水産物のブランド展開

■果樹 作物栽培支援装置（気象観測機器）を設置

近年、異常気象が多発し経験や勘だけでは収穫予測や防除適期の判断が難しく、技術の見える化が課題となっている。

そこで、農業普及課では久々野町果実出荷組合、飛騨農業振興会の協力のもと、3月2日、「作物栽培支援装置（気象観測機器 製品名クロップナビ）」を久々野町の果樹園に設置した。

装置は、気温や降水量、風速といった通常の気象観測だけでなく、日射量や葉濡れ時間も計測でき、データは専用のホームページでリアルタイムに閲覧できる。生産者からは、得られた観測データを春期の低温・降霜対策や収穫予測に利用したいと新たな技術に期待する意見が出ていた。

農業普及課では、農家の期待に応えるべく今後、データ収集や分析に取り組む計画である。



【装置の説明を聞く生産者】

■夏秋トマト スマート農業の実証成果検討会を開催

「飛騨夏秋トマトスマート農業協議会（事務局 農業普及課）」では、国のデータ駆動型農業の実践体制づくり支援事業にて、スマート農業の導入に向け生産者は場にて技術実証に取り組んでいる。

3月8日には、実証成果の検討会を会場及びリモートで開催し、夏秋トマト生産者12名、市やJ Aなど関係者6名が参加した。

検討会では、農業普及課から環境データと連動したサイドビニール自動開閉機による着色促進および結露軽減等の品質向上や、灰色かび病警報システムを使った予防対策の実証成果について発表した。

来年度は、新たにサイドビニール自動開閉機による育苗管理の省力化に取り組む予定で、農業普及課ではスマート農業を活用した栽培技術の向上を支援する。



【リモートで成果発表】